

説教 「世界の神、平和の神」

(ヨナ書 3 章 1-10 節 使徒言行録 9 章 26-31 節)

2021 年 8 月 1 日平和聖日礼拝

日本基督教団 仙川教会

大串 肇 牧師

預言者ヨナは神の言葉を伝えるべく命令を再び受けました。実は、彼はかつて一度神に背き、逃亡しました。古代アッシリア帝国の首都ニネベは異教徒たちの住む巨大都市であり、繁栄していました。しかし悪事が盛んになされ乱れていました。預言者は彼らに悔い改めを説き、悪事から離れるように説得することを神に命じられたのです。しかしヨナは恐ろしくなって逃げました。しかし逃げ込んだ船は途中で嵐に遭遇し難破しかけました。この災難はヨナの不信仰がもたらしたことがわかると外国人たちは主を恐れ彼を海に投じました。すると神は大きな魚を遣わし、ヨナはその大きな魚に飲まれてしまいました。しかしその魚を遣わしたのも神でした。ヨナはその魚の腹の中で神に悔い改めました。そうすると、神が命じて魚はヨナを陸地に吐き出させたのです。そこがまさに宣教の目的地であったニネベだったのです。

ユダヤ人たちは外国人たちを汚れた存在とし、神から最もかけ離れていたと見下されていました。不信仰なユダヤ人の一人である、しかも預言者であるヨナこそ、自分の罪を悔い改めるべきであったのです。実際、神に対する不信仰がやがて自分たちの国を亡ぼすことになったのです。ヨナ書は頑なに神に悔い改めることのないイスラエルに対するアイロニーのような響きがあります。

「ヨナは主の命令どおり、直ちにニネベに行った」(3 節)。

悔い改めたヨナは今やあの逃げ出したときのヨナとは全く別人のようになりました。巨大な都市でありましたが、ヨナは一生懸命神の言葉をその町の住民たちに宣べ伝え続けました。そうしないと、「40 日」でニネベの町は滅んでしまうからです。「40 日」という猶予期間に特別の意味があるかもしれない。シナイ山でモーセが十戒を与えられた一方、その最中にイスラエルは山のふもとで偶像をすくって拝んでいました。そのとき、40 日間モーセが神に執り成して、民の罪は赦されたことが思い起こされます(申命記 9:8 参照)。

「ニネベは滅びる」とここで明白に言われています。その言葉はもともと「ひっくり返す」と言う意味であり、容赦なく、一人残らず、完全に破壊され

てしまうことを表しています。この神の審判の言葉は単なる脅しではありません。あのソドムやゴモラという古代都市は自分たちの悪事によって、一人残らず滅ぼされました。神の審判が下さったのです。

ニネベの人々は外国人であり、神させ知らないはずですが、預言者の言葉を受け入れ、「**神を信じました**」(5節)。そして断食を呼び掛け、荒布をまとったと言われています。これは自分の罪を悔い改める儀式です。このことは王の耳にも入りました。次に、この王の驚くべき行動が詳しく伝えられています。

先ず彼は「**王座**」から立ち上がって直ぐに行動しました。次に民の人々と一緒に自分の罪を悔い改めるために自ら率先して範を示しました。

彼は輝かしい王の衣服「**を脱ぎ捨て、粗布をまとって灰の上に座し**」ました(6節)。そして王は速やかに命令を發布して全国民に断食を呼び掛けました。しかも人間だけでなく、動物も総動員です。そして最後に自分たちの生活態度を変えるくらいの熱心さをもって神に祈ることを呼びかけたのです。

「**ひたすら神に祈願せよ。おのおの悪の道を離れ、その手から不法を捨てよ**」と。「**悪の道**」とは何か。具体的には「**不法**」とありますが、この言葉は暴力という言う意味です。つまり悪事とは、暴力や争いであり、それらを放棄することを求めているのです。この王の勇氣ある行動もあってニネベの人々は悪から離れることができました。こうして「**神は彼らの業、彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくださのをやめられた**」のです(10節)。

「思い直す」という言葉はもともと深い呼吸をして呼吸困難な状態から解放される、一息つくことを意味します。神はわたしたちの罪に心を痛み、苦悩し、苦しんでいるのです。悔い改めはまさに神自身にとってもその痛みからの解放に他ならないのです。

最悪の都市ニネベでさえも預言者が遣わされ悔い改めに招かれました。ましてわたしたちにはイエス・キリストというお方が遣わされ、十字架によってわたしたちを罪から解放してくださったのです。ニネベの人々と同じように誰でも神に悔い改め、神を信じ祈ることが出来る。そういう信仰が与えられるならば、悪や暴に満ちた世界から解放されるのです。神は世界の神であり、平和の神だからです。このような信仰によってわたしたちも平和な道を歩んでまいりたいと願います。お祈りいたしましょう。